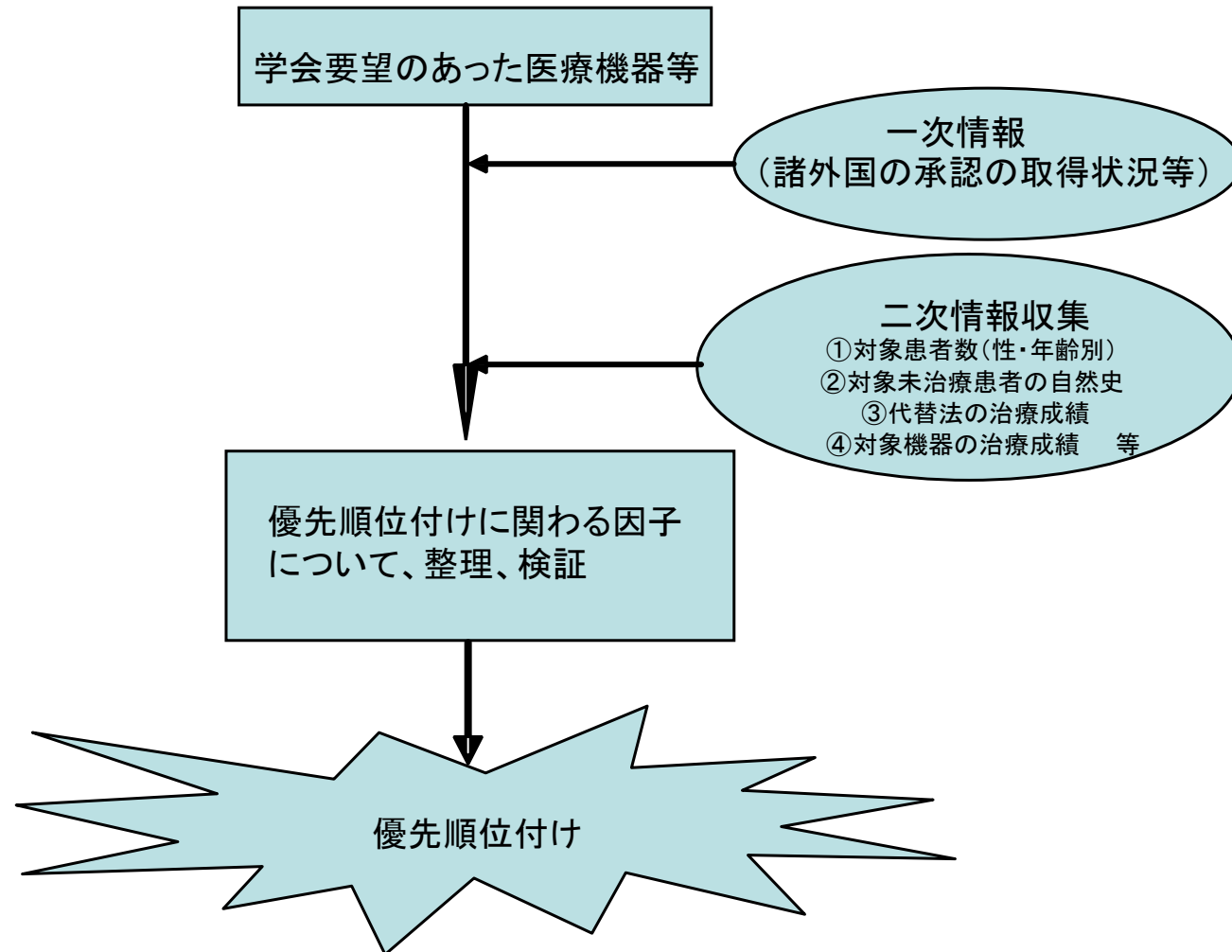


選定ワーキンググループの作業 の進め方(案)

北里大学医学部
佐藤 敏彦

2006年10月26日

作業の進め方



優先順位付けに関わる因子(案)

A. 学会等からの要望

B. 他国での承認の有無

C. 適応疾病の重篤性と医療上の有用性

- 該当疾患の重篤性
- 対象医療機器導入による医療上の有用性
- 代替機器等の存在の有無
- 上記の対費用効果

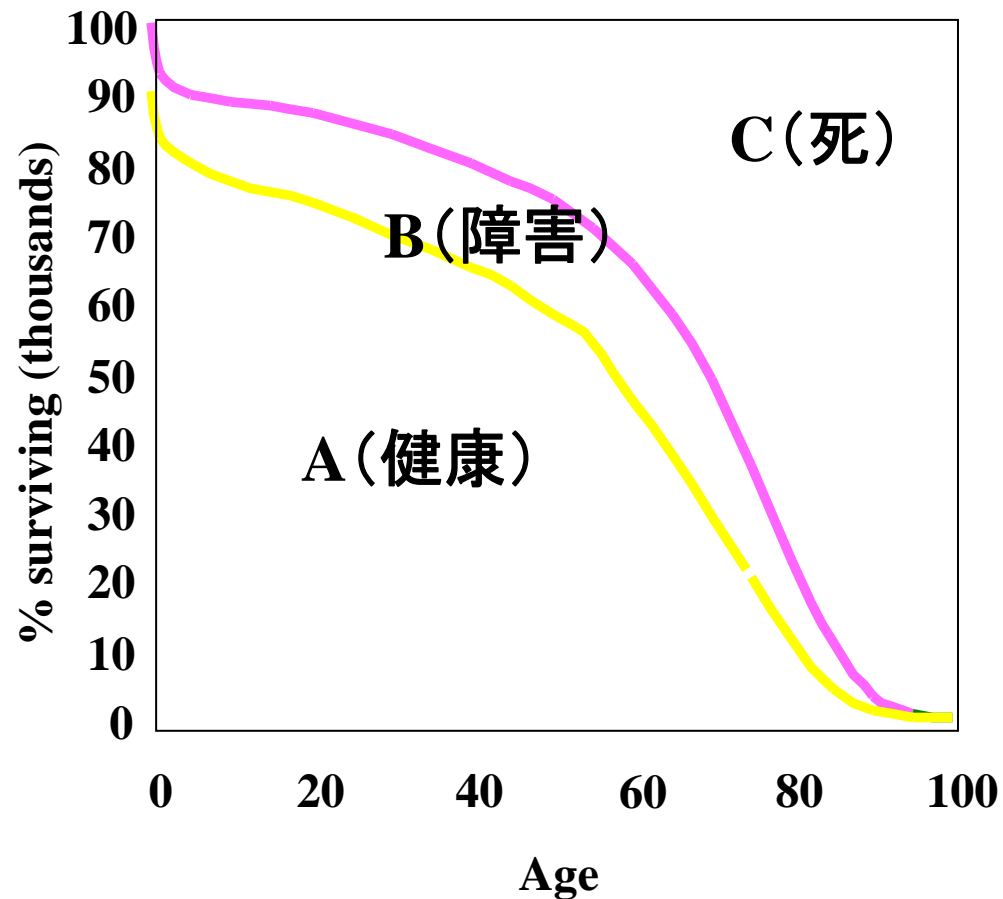
D. その他

- 導入による将来への波及効果の大きさ
- 公平性
- 社会的インパクト(ニーズ)の大きさ
- 上記Cの算出に用いたデータの信頼性

適応疾患の重篤性及び 医療上の有用性の参考となるもの

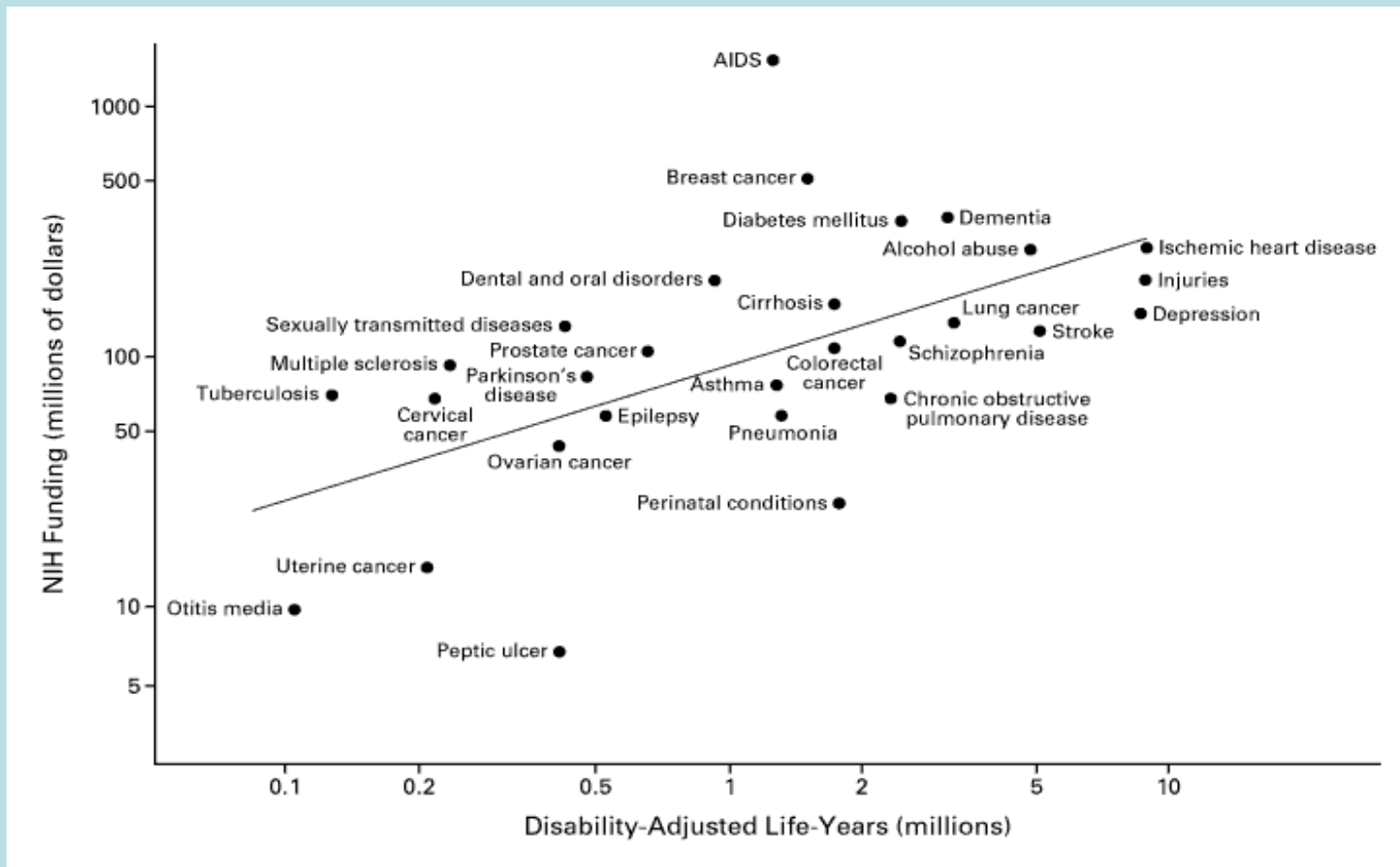
- 死亡率
- 医療費
- 有病率,罹患率
- 統合健康指標 (DALYs, QALYsなど)
- その他

Disability-adjusted Life Year (障害調整生存年)



- 早生期死亡と障害をあわせた統合健康指標
- YLL (Years of life lost) とYLD (Years with life lived with disability)からなる
- $DALY = C + f(B)$ で表わされる
- 障害重み付け係数は0から1の間をとる

NIHにおける疾病別研究費とDALYsとの関連



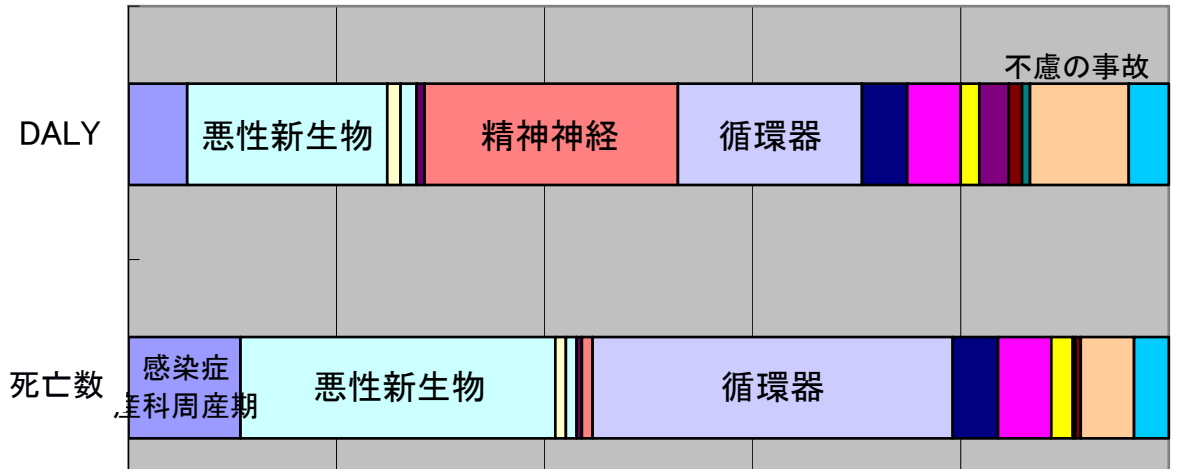
(Gross CP, et al, NEJM 340, 1999) 6

DALY算出に必要なデータ

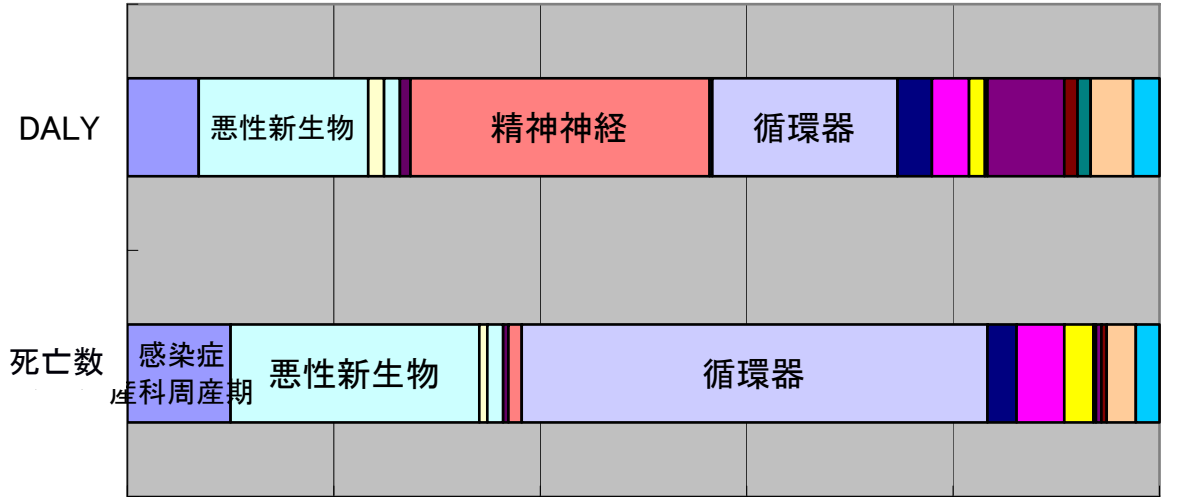
- 疾患、性、年齢階級別死亡率
- 疾患、性、年齢階級別罹患率
- 疾患、性、年齢別有病期間
- 障害調整係数(疾患、転帰ごとに決定)

死亡数とDALYの疾患別構成比

男性



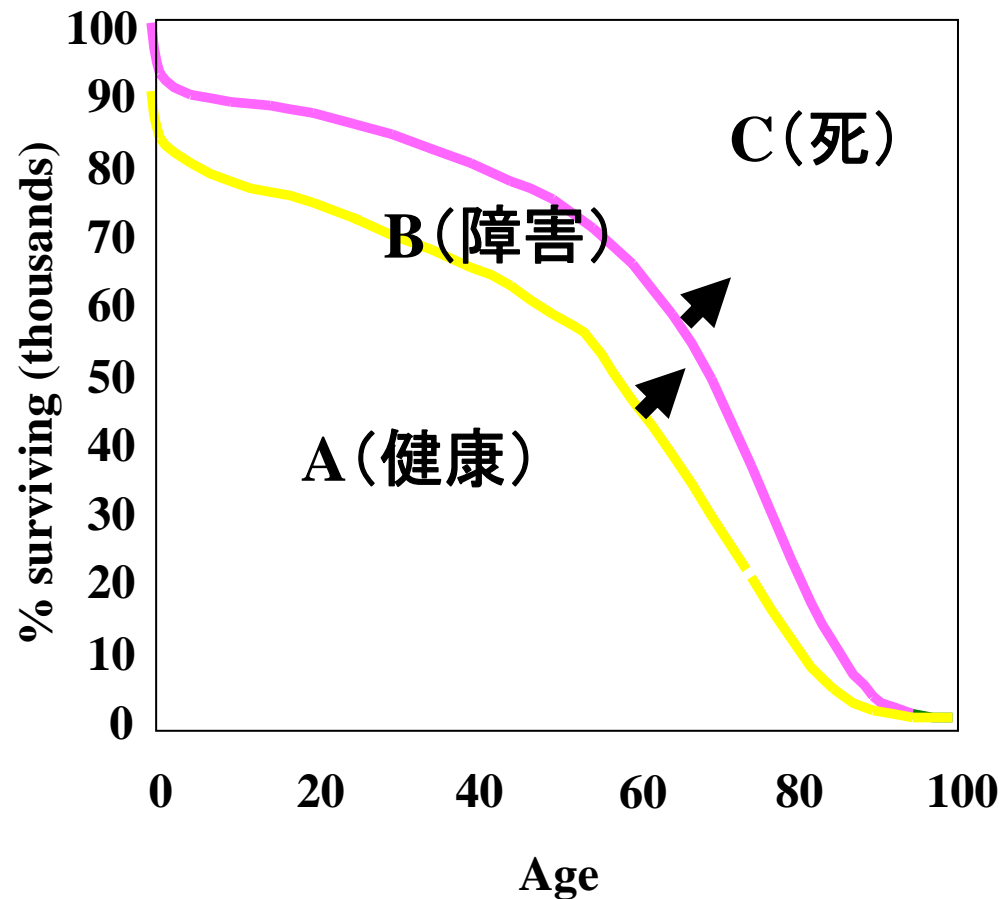
女性



0% 20% 40% 60% 80% 100%

- 感染症、産科、周産期
- 悪性新生物
- 他の新生物
- 糖尿病
- 栄養・内分泌
- 精神神経疾患
- 感覚器疾患
- 循環器疾患
- 呼吸器疾患
- 消化器疾患
- 泌尿器疾患
- 皮膚疾患
- 筋骨格系疾患
- 先天奇形
- 口腔疾患
- 不慮の事故
- 自殺

機器導入によってDALY減少分の算出



- 期待できる死亡数減少の推定(性、年齢階級別) = ΔC
- 期待できる障害軽減と人数(性、年齢階級別) = ΔB
- 減少 = $\Delta C + f(\Delta B)$